



貞享正凡の解傳書 三之三卷

蕉翁乃正凡ハ一生ヲ石室ニシテモ 之ノ録乃

末幸ハ貞享元禄ノ七年ニ既シ 替ノ巻ヲ川ノ原ニ寄ラシ

事未成ノ録ニシテ身没シテハ故ヲ之ノ録ノ録意

此レニ以テ東山ハ貞享正凡ヲ関キテハ

事トシテ之ヲ志スルニハ一ノ事トシテ

之ノ一ノ事トシテ一ノ事トシテ

字ニ録シテハ 蕉翁 室ヲ領シテ

以テ人ヲ不ニシテハ 蕉翁 室ヲ領シテ



あつたれ事 頼ら 必し理作やをらん
心もせえたる者解一の少く向上一
得るも外集とてえられん 求るは
解もとのハ之精細而也

占之要不集之中

憂方知而聖一負始覺一鏡神

色也

能 以ふりて世 親酒 白り 食里一

責 = 交つて 殿ヲ忘レス

取 腋と 畫は 陽炎 乃之披 一の明

法令更 一 一 師一ス

能 戸行 以て 音 途を 殊ららん 有言

是比 唯ヲ以テ 聖白ヲキノ 問答ヲサハク 全クオモノ

用ニシテ 今是ニ 世ハ 宜シ 則 野 語 詳ノ 心ナリ

深山ニ云フ 是一日 四ツ山テ 書 録トシ 俗 俗ニ 通シト
スルカ 果ノ 末年 一品 陸ニ 佐 洲ニ 居ル

全

三皇子

稗史

ハナハナ

有る梅

昔角

昔角より云ふは是例スヘカウガルノ志也昔角トハ初メ
早下スル也稗史ト云フニ大ナシク望ミ信士能カ説ニ大難ナリ
是ハ初メ夫ヲ容セガレト云カルシ容ニテトナシ果集ノ及フ
ヘカウナルヲ是ヨヨク一ツセシテ心得王に有梅ノ人物ナリ
世トシテ此ノ字ハ亦ニニ夕云リ勿論ナリ

名

月

江ノ巻

花蘭

昔角ヲ用クトイヘ正只月ノ場

浪乃

ハナハナ

ハナハナ

ハナハナ

昔角

續ノ字秋景字白ノ例

江

浪小雨

一品

佳人ノ志

朝小

ハナハナ

ハナハナ

昔角

アレクニハ評テトナリト云ヒモアリ論セラル人

浪人の志

ハナハナ

昔角

臺シテ宮中ノ殿トス

了小

ハナハナ

ハナハナ

昔角

殿中ノ詞

敬々

ハナハナ

ハナハナ

昔角

無常ニ事ス

落ハ退之

ハナハナ

ハナハナ

昔角

潮品ニテハ韓愈カ作

禱入しぬ 蘇ハ 六十ノ 荆ノ 一角

蘇ハハ 蘇ハハルサト見レハシ

阿利ハ 胡ノ 座ノ ぐく せヲ 夷ノ 也 芭蕉

阿利ハ 郡人 居内ノアリ

人ノ 惟ノ 異 後ノ 長ノ 月ノ 厨子 思ノ 一品

惟ノ 物 異ノ 事 後ノ 長ノ 月ノ 名

松日ノ 心ノ うちノ 野ノ 暗ノ 為ノ

在ノ 人ヨリ 知レ 運 強ニ 至テ 二用イテ 妙

さふハ 巾ノ 陣ノ 中ノ 小ノ 似ノ 新ノ ぐ 其ノ 月

是ノ カケノ 紳ヲ 愛セシヲ

山野ノ 小ノ 創ノ ぐ 録ノ 今ノ 貞ノ 丸ノ 扇ノ

其人

遠ノ 井ノ 月ノ 子 伯ノ 夷ノ 是ノ 役ノ 小ノ 芭蕉

全ノ 異ノ 象ノ 心

くノ 丁ノ 小ノ 衣ノ 士ノ 丸ノ 憤ノ 草ノ 其ノ 角

イキトツリ

此ノ 作ノ 丸ノ 心 鳥ノ 城ノ 夷ノ 名ノ 同シ 一ノ 字ノ 身ノ 味ノ 統ノ 一ノ 字

見ノ ぐ 一ノ 意ノ 書ノ ぐ ぐ 也 柴ノ 抱ノ 其ノ 扇

討ノ 取ノ 十ノ 思ノ 一ノ 定ノ 也

笑ノ 心ノ じんノ 小ノ 師ノ 丸ノ 玄ノ 鏡ノ 一ノ 品

通ッテ 言ノ 原ノ 今ノ 轉ノ 不

唯の二篇言を母に、
あはれみし水と
あま

あはれみし水と
あま

ついで
あまを心
あはれみし水と
あま

あまを心
あはれみし水と
あま

あまを心
あはれみし水と
あま

あまを心
あはれみし水と
あま

あまを心
あはれみし水と
あま

あまを心
あはれみし水と
あま

同集之中
一年之百六十日

一年之百六十日

あま下

唯
能てあま
心との事
あま下

あま下

取
世に白
あま
あま下

あま下

取
日
あま
あま下

あま下

あま下

あま下

あま下

百と好く 瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と

瓶と瓶と 瓶と瓶と

影也 ありの 影見し 男内由り 下

一子アハル男式。字廻成。長整ノ凡

春、月 君少 くらまのい のるす 角

朝高、延里、伴ヲねス 早凡、似テ、生情少此、妙

月、ろ、ろ、生情アナニの、い、れ、上、戸、や 下

馬ヲ持シテ上ルハス 別 上ルウナナリ、リノフル 是モ 係セ、こノ故ヨク、味ヲハシ

居、七、白、り、多、あ、さ、川、と、録、角

道ノベノ海

朝、白、い、ハ、道、分、ハ、種、を、く、く、し、令

中、屋ノ作、ニ、高、ス

院ヲイの、收、家、の、あ、ろ、ろ、さ、き、岩、下

こ、作、ヲ、得、タリ、洞、曲、ニ、ミ、テ、平、ヲ、想、ハ、シ

都、道、キ、修、原、中、野、の、ひ、出、角

中、野、ノ、字、ヨク、下、シ、タリ、角、紙、ニ、カ、ア、リ

紅、紙、を、く、く、に、ハ、産、の、と、も、文、下

世、ニ、武、リ、芝、居、舞、向、ニ、シ、是、又、治、世、也、ニ、居、ヘ、テ、岐、路、ハ、シ

足、邊、の、り、女、を、房、や、ろ、ろ、と、頼、り、角

こ、人

所、ろ、ろ、收、の、と、一、地、と、成、多、下

石、物、ヤ、タ、リ

笛より流る 萩音 何と云の情 角

前、白、房、色、紙、綴、り、後、書、の、外、四、巻、に、二

風 吹く 夕、ハ、切、り、籠、灯、の、下 下

牡丹花、燈籠、十、十、ノ、事

酔、り、く、小、夜、景、ハ、秋、の、む、り、を 角

と、陽

あ、ぬ、夜、の、ゆ、子、 眺、を、懐、む 下

遊、里、ノ、後、話

名、月、の、ふ、ハ、洞、小、く、と、を、け、 角

遊、里、ノ、作、り、表、云、ハ、心、三、卷、年、ノ、感、ハ、云、ハ、角、カ、如、境

金、一、燈、籠、 一、箱、う、み、と、思、ふ 下

金、籠、ノ、サ、テ

葉、生、美、を、世、に、ゆ、わ、マ、ワ、コ、ね、と、人、と 角

服、系、信、ヲ、出、フ

羽、津、 一、子、を、 弟、の、名、の、歌 角

浮、世、屋

す、法、師、 切、し、の、衣、の、斗、一、つ、さ、う、お、 甚、か、を

屋、主、ヲ、嘲、し、侍

昔、を、 力、を、 一、年、一、都、落、あ、 大、小、 下

巻、三、種、う、し、る、人、平、目、ノ、事

伊乃多門之んをよめ角

右代巻人ナリ

之又之乃之乃之乃

同然スヘカラス定て定てノ如也

此巻ニ十八夕迄ニタレ初キヨリ

世間ノ事ニナシノ理ヲヨク知ツテ也

合ウザレ録ナラフヘシ

因集

酒債尋常性類有
人生七十古来稀

詩のらん少年と貧乏の債哉

サナテ

其角

前巻ノ古語ハ是其角カ定積也其角元果
杜詩ヲ好ム故ニ暫ク其角ノ故語ノ忘ラズ

此白多尋常ニアラス之也一場ノ巻

早日ノ骨ノ如ク論スヘカラスノ示 証無示

去帰ニ有違多し 格例ハ此巻ノ心トスル

下アアア不共其氣山嵐ヲ北ルヘシ故ニ原西木

集ノ巻ニ多理用ナシテハ説カ多シ然レ強テ

月、油のいろり、睡、膝の上、令

草履ノ困ヲ甘ハスヘリヲ云フ

町の羽、まげる、夜、深、也、在

こいし 相寛クソコト也 翁ニ 操ヲ示ス

和、知、く、ぬ、保、を、忍、小、台、草履、小、令

自ラ云イコト也

一、く、水、山、淡、年、と、年、フ、角

和云解シケシヤソノ字ニ因リヤクヘシ

各、竹、の、と、く、と、甘、く、保、を、く、と、在

こ、人

柳、場、の、を、く、く、く、及、と、在、角

く、場、ノ、縁、系

一、乃、唯、里、の、な、家、み、を、ん、り、水、在

云、名、付、ノ、古、物、カ、ク、リ

新、名、み、く、の、と、云、数、を、賣、り、也、角

四、合、ノ、趣、シ

か、と、く、く、は、悲、の、無、き、と、啼、く、と、在

氣、合

く、く、く、子、泥、む、寒、な、ん、の、被、角

行、ク、勢、ハ、悦、ビ、ク、也

魔神を使とま 芒の海の崎 是

芒陽 一方二種感也

鐵のら取 狂 世よよ 角

狂 芒の天下ノ剛カナルヲ稱也

占の 懐了 妊了 あうゆき 是

衆士ニ造物多クシテ是ト也

山寔と 四睡の床と 吹あし 角

荒ノ海ノ毒傷也 且食庭ノ伴アリ

うつし火消る 活のしりし 是

深衣指ヲマテ 灯ヲカケルサニ 是也

下司后 朝と 新と 月み 角

指ニカケル 灯ニスイフリ者 新と月トトコノ教

西此を 陵り 包み あふく 左

東也 小巡女ノサテニ 月ノ夕良ニ 是也 漢ニ流トス

まいふ 宮城 野と 吹羽ら 是

ホトハ 東也 宿禰ヲ 林ヤサ 地ノサテニ 是也

多ク名敷ニ 令セヨリ 理俗ニ 入事也 是也

ちのくの黄 ちのぬ 石仰 角

室ニテハ 令敷ニ ちのぬ 是也 宮城野ニ

真実ヲ 行ケボトニ 是也 日向ノ 是也 皇國ノ 是也 是也

云士乃濯の垢麻よりくうは 直

不礼感、作か、昔懐ノ大志妻ヲ怒リ玉フ心

ハ聲乃男の雪を差け 角

旗陣ヲ打まてし中

静あらし 空花を金魚 雨後ト 今

幸ヲ折返して花は云自也アリ曰意

春湖 口は若く 加馬 興 以 直

ノスルハ云イノルト云フ意味イ考ハ之自也ノ

別し見テ所保シ口は若クト云ニ秋是也ノ

人ヲ教ム悟ヲ礼ラシタレ心アリ

此花及アケ夕金ノ口は先ナ而エソテ云フ

登白ワキの心は云是ラ云一々 空ナ

又云出く一々七云給ク一々 漫興 伴

と云 春湖と云 興ヲ云と云 何の心

何 何れ云云七口一々と云 紙ヲ云 吾人

と一々 目云云 何と云 是別 虚云

ノ悟了 乃 街也

雲川 粟集之跋

其前諸集ノ端書キニ如斯ノ稱ニ至ルハ
未見カ故ニ抑々家ニハ是ノ解ヲ加フ

粟とてふ一書其味四角とある杜の心酒
を嘗く雲山の法遊を暇に於て
其句をみよふ途やとゆふを、俺と云
のこをみよめ、西行の山家と云ふの
人の猶とぬ能く粟也

味四ツトハ、余々浮意アリ、是ハ味ノ不尋常ナリ
如、詩經社、律、万葉山家集ノ本、ニハ是ニ於テ

イフ心ハ夢杜カ心酒トハ塵詩ノ凡情也
寒山ノ清瀟トハ祥機而上ノ一跡ヲ
味フ也心卷中ニ云ル朝ヲ探テ云々
夕見ニ道ニシテトハ戸葉集ノ凡義ヲ指
カクニ遠ノ境トハ風能トハ詩論ノ事ヲ云
信ハ凡雅世上ノ事常ノ刻滑十カヲ
喜生ツ子ヲラヌトハ翁此深意アル故翁家ノ
刻滑ニ云フ例トハ凡雅トイハレ信理トハ遠ニ
詩論葉集ノ道ニ遠ナラフ事ニホトニ
山泉ヲ尋ニ西行ノ山泉集ニ比テ遠ニ事ナ
衆人ト遠スル事ノ事ナラ自ラ知リテ人ノ
指ハ又能栗也ト云是字日云フ貴好カク解
心也去ハハハハ集ノ難見ヲ証知カシ
意ノ情显レ好シ甘ハ西施ノ好ミ神カ
意ニ葉集鑄イ山泉第一上陽人の国中 子ハ
意析ニ草ノ明ナラズ也

是ニ卷中ノ朝ヲ摘トイハレズ可事ノ
好ハハナク示ス西施カ魂神ト云鑄イ山泉
ト云者ハ其ノ以テハ凡情也
暫シ後日リ信ニ道ヲ討カテ日ニ至ラテ 意

毎朝ノ事ナリ物仙ノ年
別他ノ事ニ至リ

顯事多し故事ヲ實ニ行フテ清意味ヲ
失フハカウズ統ニ前ノユルニ其角ノニ流ハ
詞上ニ流ルウキ名アリヨク味フヘシ

下ノ品ハ眉ハとハ新ハ心ハのハ原ハ要ハ始ハ乃
多ハ可ハ事ハとハあハりハ子ハ寺ハのハ兒ハ歌ハ集ハのハ元ハ
のハ情ハもハ後ハ至ハ白ハ氏ハのハ歌ハをハ傳ハ名ハニハ作ハ一
くハ初ハ心ハをハ概ハもハ多ハしハとハ云ハと

是ハ又ハ卷ハ中ハのハ詞ハヲハ概ハテハ云ハ下ハノハ品ハトハ云ハテ
清ハ雅ハノハ白ハ法ハヲハ多ハ的ハ意ハハハヤハスハ智ハ意ハ院
ヲハ示ハスハ白ハ氏ハノハ歌ハヲハ假ハ名ハニハスハルハハハ多ハク

實ハノハ心ハハハアハラハズハ品ハ初ハ心ハヲハ概ハテハ傳ハリハナハリ
山陰後ハル集
白氏ノ歌ヲ概詩ハ語ハ多ハクハ全ハクハ文ハ字ハノハ二

入ハレハ用ハイハテハ何ハノハ得ハルハ事ハカハラハズハ白ハ法ハ雅
意ハヲハサハレハシハ得ハルハ則ハ意ハ節ハノハ白ハ法ハ詩ハヲ
カハクハ信ハニハモハ用ハニハヘハシハ收ハテハ去ハノハ和ハ歌ハヲハ毎ハ年ハ等
ノハ白ハヲハ客ハニハ傳ハリハ心ハヲハ多ハクハ以ハ流ハヲハ可ハ信ハル

高ハ信ハ 平ハ房ハ勅ハ 上ハ唐ハ實ハをハワハクハシハ信

唐ハ實ハノハ間ハニハ入ハレハハハ是ハ龍ハノハ龍ハニハ入ハル
道ハ也ハ上ハ唐ハ實ハヲハ合ハテハ其ハをハ實ハノハ流ハ物ハニハシハテ
皇ハノハ龍ハ十ハノハ是ハニハシハ皇ハノハ如ハ流

實乃得ト小ト夕トと煉ツ之レ龍ノ象ト文字ヲ
をシ流ス

寶ノ島ニ夕ヲ煉トハ草ヲ碎金ヲ
得ル仙機ヲ丹田ニ練ル龍ノ象ト文字ヲ
ツ流フモトハ必ズ天下ノ名劍ヲ得ル莫シ
耶ト風ツテ四海ニ紫氣令ズ之ト也
ツ云フ虚實ノ同クレレ名ニモハ感動
スル事アクハズ古虚實ヲ合タガン物日ノ
雪月動ス空ニヨク心ヲ留メテ此卷ヲ磨シ
鍛フヘシ虚實一ニ見カテ事也也

是必他ノ方ニありテありテ海ノ寶ヲ
其ノ望人也也

天下出人ニアフガレハ此意ヲ不知不知
他ノ實ニテハ此ノ實也其ノ象ニ
其角ユルス事也也又其言ヲガレ
ハ今ヤ此象實ニ味フベキ者也
一生ノ一集トシテ思フ而シテ後ノ望人ヲ
得テ真ニ如ク云々神ニ入ル心後
君子ヲ得テ云々言定言定言定言定
タル者ト見ルレハ大ナル疑也也望人

ヲ得ニ厚理アリ夫レ此巻ノ心表ノ理
俗理ニ似タリ下ノ意又俗理ニ似タリ
能ク西米トシこし与摩西米ト稱ス粟且ク一條
甘味ヲ生ス宜ク至ラズ此味ヲ不熟
此巻ヲ北ツテ陸ノ受ル者皆テ不得此
巻ヲ看破スルモノ多ク不得受クヘカ
ラズ嗣ヘテラス此一角ノ邊人カツテ
正ニ得テ去レシ甚ク益ト去レ物、何者ソ
呵々 還ツテ其風亦固圜上ニ生ス

天和と登美 仲夏日

別名和之幸ハ貞孝ノ天幸也故ニ此冊
子ハ貞孝ノ二年ニ云ハ云

芭蕉洞 柳書 敬宗書

洞ノ字ヲ入レズ女時道翁佛頂禪師
真學シテ常別庵住アリ西遊龍洞ト云
ニ似ル故ニ此芭蕉洞ト云アリト 美人ニ
實ニ多縁中ノ朝忘ル也ト 敬宗書シテ
書スレバ、公前ノ造意知又ヘシ社中ノ人ヨリ
是等ノ事ニ心ヲ留メ味ニ至ラヘシ

其角又 歎之曰

或曰序トシ 或曰跋トス
兩本アリ

嗚呼古人會見交行之詩吐而感

序

翻^{セバ}于^レ世^ニ 覆^ル年^ノ 雨

紛^ハ々^ト 何^レ 須^レ 數

世^ニ 不^レ 見^ル 宗^ノ 經^ノ 合^ハ 見^ル 時^ノ 交

外^ニ 遺^ル 今^ノ 人^ノ 棄^テ 如^ク 也

風^ノ 下^ニ 世^ヲ 拾^ヒ 之^レ 水^ノ 如^ク 之^レ 何^レ 原

是^レ 其^ノ 角^ノ 自^レ 價^シ テ 造^ル 而^モ 合^ハ 見^ル 交^ノ 行^ノ
序^ノ 詩^ノ 歎^ク 之^レ 何^レ 例^ノ 在^ル 於^テ 今^ノ
那^レ 遂^ク 歎^ク 却^ス 之^レ 道^ノ 名^ヲ 奇^ト ス ベ
カ^ラ フ^バ 只^ラ 序^ノ 詩^ノ 意^ヲ 吟^テ 在^ル 實^ノ 心^ニ
不^レ 悟^ス ベシ 翻^キ 手^ヲ 作^ル 世^ノ 間^ノ 輕^ク 語^ル
交^リ ヲ 思^ヒ 仰^テ 意^ノ 實^ヲ 知^ル 世^ノ 間^ノ 輕^ク 語^ル
何^レ 用^ル 所^ヲ 上^ニ 之^レ 翁^ノ 白^ク 又^モ 精^ク 翰^ノ 之^レ
高^ク 宗^ノ 經^ノ 在^ル 世^ノ 間^ノ 交^リ 之^レ 思^ヒ 之^レ 喧^カ 之^レ 世^ノ 間^ノ
己^ノ 日^ノ 子^ノ 取^ル 都^ノ 夕^ノ 夕^ノ 夕^ノ 詩^ノ 之^レ 日^ノ 又^モ
自^レ 之^レ 序^ノ 詩^ノ 歎^ク 之^レ 日^ノ 上^ニ 之^レ 文^ノ

中ハ詰イ下ハ吐エ一夜泊ハ下セノ
下ノ客ハ云翁之是ヲ多ク信置シテ
ニ夕夜泊リシ宿館ノ客ハ細カク早
得シテ去リ去リ也然レ今時水ノ與
交リテ控テ醜醜ノ交リテ空トス
豈知道ナラシヤ之角宿ヲ見分テ
此世ニ控レヌト仰リテ自負ス
風ノ一字ハ余ノ冬ノ日集ノ燈台ノ下ニ
及テ後ヲ致シテ餘ニニテトテ
フハハ書スルソラン

右メナシ粟集ノ意誠ニ真ニ字々申ノ
巻この理を無スル是れ水ノ餘ハ此巻の歌を
此ヲ押スルハ一深川集を是也而
その日あり野の露をぬぐく今ハの柳花を
潤くハ翁の清意味をてふるも是也
旅ノ夕ノ競へきハ云々ト云
是レキハ原の一葉ありハ都ノ一名家不ト
と果レノミ此の結晶と稱するハ十二の
はついと云々^{カクヘシ}雁^{カクヘシ}ノ
人ハ云々正レと稱するハ四人也云々

合つてまゝの素達 若し御紙紙の圖書をうり 若
 柳若と頼ふ 是自ら喜ぶ事やおつと一の事いふ
 事なき圖書 御紙紙の事 評も 及なくと云ふ事
 なく 評も おの小歌 評も 及なくと云ふ事
 及なくと云ふ事 評も おの小歌 評も 及なくと云ふ事
 評も おの小歌 評も 及なくと云ふ事 評も おの小歌
 評も おの小歌 評も 及なくと云ふ事 評も おの小歌
 評も おの小歌 評も 及なくと云ふ事 評も おの小歌
 評も おの小歌 評も 及なくと云ふ事 評も おの小歌

ほつきりるふくはの申

一巻

左 巻紙 拍

右 巻紙 拍

又山七の巻紙 拍
 又山七の巻紙 拍
 又山七の巻紙 拍
 又山七の巻紙 拍
 又山七の巻紙 拍
 又山七の巻紙 拍

巻紙のうりやうたにナクテハアウシ

ふねにうねるをくまにうねるを
たふのりしるをきぬしを 持て定
けりしる。

右在るを是と師の別也也うに世の
業の事一とて情不深 草草 世中
にルハ心故に甚有る巨細に凡景の
勝者り合しと志十と此世用の俗を
世に非ず極の故に持てたてむと合
法神の善ノ別の時スレノ例トウ家ニ
趣意を別ニアリぬと白く此の白の同也

二年

たそね 膳

新とよめ ちねねとあまふ 野了也 後石

右

ちねねの 肩をのりし ねの事 草指
このちねねのちねねのちねねの
あまねのちねねのちねねのちねねの
ちねねのちねねのちねねのちねねの
ちねねのちねねのちねねのちねねの
ちねねのちねねのちねねのちねねの
ちねねのちねねのちねねのちねねの

露の汗又涙ホレ又へし世ニ何
ノ到ラカ得し子ノ白髪翁ノ好ハ所
故ニ勝ト定ハ中胸ヲ鼓カ如シ實ニ
枯如後リ強ナリ石ノ白 夜ノ船ニ
西川アタリノ暖月ニ扇ビタイニセタレ
望深ノ付トトニ対シテ生モ尋常ノ
吟。アウズ真孝ノ人誠ニ慈翁ノ白髪
備ニ哉。アテ出白ノ少年ハスベシ世
例トシテ枯カカトシテ少祿ハ云類ヒトトハ
日ヲ曰フシテ羨ムヘアウズ

之魯

夜 夜興 詩

永望ノ 月夜忘ル 和興ハ コ 齋

石

ソノ水 程 得久 美々ト 大也 文 講

凡ノ夕暮ニ浮カ入狩人ノ形容
ソノアノ事有ル石ノ白ト云フ
今集七巻ノ下ニテ、終ルモモ得久
永也ツキウツ 仍ホテ 持ハス

翁ノ心石ニ目シ夜興ハ夜剛更ト云

之疾ノ御也 夫ノ白浮杯ニテ 日夜ヲ
 是、ストノ見ルトナリ 理例ノ一ニ 爲スヘシ
 者ノ到イフカシキ 難言ニ出ル 如美ニ 夜山
 ノ意ニハルノ 評識ニヨリ 見ル物ナリ
 然レモ 思見ケシキニ 出ナルノ 夕意ニ 在リ
 然レモ ナレト 悟リ 在 所 視ヨリ 求メテ 悟
 然レモ 情智リテ 是ニ 得 矣ノ 文字 而 見
 然レモ 正 視ニ 分 難シトシ 然レモ 評又 妙
 也 是ノ 持ト 定メテ 不 論也

但 是 意 典ニ 移 大トシ 云テ 評ヲ 定メ 事 終ツ
 然ト 定メ 評トナリ 然レモ 正 視ニ 分 難シトシ 然レモ 評又 妙
 然レモ 評又 妙
 然レモ 評又 妙

四巻

下

折地

山

折地

折地ノ入リト

折地

右

乃

折

地

ノ

入

リ

ト

乃

夫ノ白浮杯ノ 評 是ノ 意ニハルノ 評識ニヨリ 見ル物ナリ
 然レモ 思見ケシキニ 出ナルノ 夕意ニ 在リ
 然レモ ナレト 悟リ 在 所 視ヨリ 求メテ 悟
 然レモ 情智リテ 是ニ 得 矣ノ 文字 而 見
 然レモ 正 視ニ 分 難シトシ 然レモ 評又 妙
 也 是ノ 持ト 定メテ 不 論也

是道あり、意を以て人々皆アサレ一西ノ野也
おしにす松初葉ノ歌有クア公好ノ様ニ合ス
松ノ脚也書々々一丁ノ松中ニ被染ノ氣
アリ此箇松も折地ニ折入イロアリト云
方折折地、目メツト能見是れ不ノ理也
ノれしは是入ノ老葉ニ對シテ松葉ノ色ハ
ハハワカレニ云何トナク感ヲユリ上ノ作ハ
消、行々心成ナレハたりユリ馬ハ定メ
玉ヲナラン

且書

た 細代 持

子とつ水々 衣の細代 あ義 袂一 心水

石

細代 木の 申子とヤ 尺女が 巾着 不角

細代の ぬふろ ちと遠く 他意ハ 珠たま

らふろと 尺一 石又 あ方の 扱ふ

巾着と 衣ささい 巾着一 ちと遠く

た石 感心 巾着一

此書ノ判ニ例ノ人情ニ絶テ絶ニ

破新剣ノ氣アウハレガレニハ非ラヌコノ別
子ヲ連ケルヲ結ラシト福シカノウナテ
定テイマテシクシト成ラヌ家也思フニ子ヲ
ワレテノ時人情ノマル者ナキ事ヲ云ハ
ヨリ必ス荷擔セシ事候ト侍ニノミ
云候タル口ヲシテ石ノ柄ハ好トイハレ
心海ニヤ石ノ白々ニルヤ見テ元ノ約
翁ノ回想アリトイハレ寧ナノ感ニ老ク
是ラス共沙ノ理ニ成ル方堂ナカ居ニ別
ヲ持シテ海カレシニソ

六高

石 草 勝

破れ葉もつる類も 氣は 詞林

石

石も 龍カ川 龍ノ雪平の跡 立止
石ノ白雲と云ふもの 口ノ方
見ぬことと云ふ人々の 聲も
石も 水も 川
雪平の白雲も 川
石も 龍

此列之石三日し 忽し巨をかしノと云
流タル音は二破しを葉ヨリ 砂塵
類出しテキロハト 是夕ラニケシキ
十中 秘ノ物ニソイテ 初リ 籠ヲハ
シテ 小野ノ音ニモ 思ヒ 是ケレ目ニ
ノ意ニ 翁ニ 感シテ 衣 階ハ 定ニシ
タルニゾ 雪車ノ 石ノ 次ニ 以テアリト
イハレ 後、タル 雪見出シタラニ 情ニ
石ノ 離リ 後ト云フ 亦ハ 十ニ 初リ 答メテ
初ニ 不 知トテ 論セシ 其スレ 後也

七言

此列之石三日し 忽し巨をかしノと云

石 驚 胎

冷 野 の 声 如 是 風 之 初 也 一 岩 音

石

野 々 々 々 廿 第 二 十 折 石 冷 野 音 意

きくも の 声 如 是 風 之 初 也 一 岩 音
一 句 一 句 一 句 一 句 一 句 一 句 一 句 一 句
真 々 々 々 初 始 一 句 一 句 一 句 一 句 一 句
ち 々 々 々 野 の 音 一 句 一 句 一 句 一 句 一 句
三 々 石 の 音 一 句 一 句 一 句 一 句 一 句 一 句

ねろーもあゝねろふれ。もろーののの

澄のまの白濁さーとささ

他ッぢと他ッ痛スル事々此ス如クト奥ノ

純氣の足有留ノて、作ニテ純潔ノ

貞一其モトニ儼ハ出月モト云云ニ

右ノ行感懐アルノ事也然ルヲ聲アリ

タワルト云フヨシハ痛ス奥ニ其ノ氣ヲ

たふスルノ道也象、既フトノニアラス感

望ニ詩歌ニ別セシヤ石ノ白歌時ヲ陰

テ時をリセタルヲ是ヨ今人ノ歌ニ甚

ムトハ日日ノ詠ニアラス

八番

石 少柱

凡 少柱小 少柱小 少柱小 一 一

石

門 角ノ開店 行由石 少柱小 翠凡

少柱小 さささ ねろののろ。ささ

ねろのひひく 委ろろろ 石。細く

おーとわくく の無柱けく 門を

とらるる 開店 の能感傷 ささささ

さささ 美、終る

雪十一年の自う祝言を三連、吹雪
イタノ味も、是夕少柱に、戸毎あり
吹雪、是りサガリ、心、信家、ケ、シ、十
細、ア、ハ、レ、シ、レ、信、而、サ、リ、を、シ、キ、お、ト
者、リ、ス、レ、ニ、ヤ、石、ニ、着、テ、用、開、ノ、心、口
翁、ノ、本、情、ノ、然、ノ、シ、レ、ニ、秋、後、ノ、落、ノ
骨、ノ、く、十、二、少、柱、ノ、イ、ト、シ、ク、人、間、ノ
交、ヲ、ソ、シ、リ、テ、開、者、ヲ、教、へ、ん、ア、リ、ニ、是、ノ
テ、心、ロ、カ、ル、ト、ヤ、心、情、ノ、物、ニ、情、ヲ、能、レ、モ
情、乃、ト、キ、ハ、信、ノ、知、物、ハ、ナ、リ、内、ル、也

九、音

正、教、待

何、の、信、者、乃、も、教、は、之、の、信、也、 亦、下

石

子、林、あ、り、く、也、を、正、教、あ、り、如、か、 伸、也
烈、也、を、威、嘆、く、亦、是、其、の、中、山、也
と、り、を、其、の、く、て、も、は、た、を、も、あ、り、如
如、か、れ、と、亦、あ、り、い、い、さ、ふ、石、ハ、下、り、
野、子、の、正、教、上、野、子、の、正、教、ハ、正、教、ハ、
ら、れ、を、開、き、入、る、不、師、曠、年、を

えいそを 羅書、目のまをそへり
とふも 石石のまをそへり
あま

あま、判書、到つてしと云こハアアア
則時ノアタリ前ノ不也 改マ此三夕
一言ハ年ヲ云ハ一言ハ日ヲ云フ自ラ
兩件お別シタレハ是ヲ持セサラ
ハ夕念ノ興ナク志ヲ終セタマフ
稱シテ細ク思フ不也 此たり夕念
女シニテハ能クハト心カレルハ今ノ判中
ニアラハナリ

十善日

長 神楽 膳

山神楽ヤ 方々短長 古ノ歌ナリ 云来

右

舞 狂 舞 神楽 舞 舞

長リ夕念ノ舞ナリ 舞ハ不也 凡ク
古ノ歌ノ舞ナリ 舞ハ不也 文事ナリ
右ノ舞ハ古ノ歌ノ舞ナリ

舞判 冥モ舞ナレハ一也ナリ 舞判
夕判ノ例ハアア不 舞判モ 舞判ノ

才子といふは多系に高の合す、如く親しき
幸望日日出し、一徳に高に去るわが
夕に知つて編せす、あつた難に、
之親しき才子といふ、依り、
去来り、此の才子、
後、トイへば、並へ、
ハスグレ、
カフ、
然り、
首尾、

十一番

左 歌中 脈

山里や 歌中 とうり 人なり 高 観水

歌中 山 山 野中 夕言

日、夕、山、野、
夕言、
心、
心、

又此列ハ前ノ角トハ心掛別セリ。句ハ
例ノ世ナシノ正ル停ナリ。別ヨクカラ深
心アリ山中リ。口ニ言セウレト云ヨリ
礼林ニアルカトト。停車坐。愛ニ楓林吹ユ云
夕ヲ忌イヨレリ。尺ノ夕ノ貴人ト見テ云フ
則歌中ヌク人ヲイニカリタニ。官位ノ
人ニ定テシリ山里ノ業ヲ忌イ入所。理
ヨリ題ナシ。深ニ野原ニ。お同ナク。尺ニ
心ハル。ハ。及。送。志。別。者。深。先。ハ。也。五。果
カ。夕。ト。ハ。若。シ。事。多。シ。是。夕。別。ノ。深。意。也。

十二番

友 松林

何方よりゆくあをらん 燈をふく 春白

石

燈をふく 春をゆく 佛也 不ト

是れも此ののの遊む所を信より七
優ニと 巖女石ニ 春の松林と云ふ
夕をゆく 是の夜をゆく 春の清徳の徳を
いふも 是の徳を 徳をいふも 徳を
いふも 佛也と云ふ 夕の松林と云ふ

葉とあらうしたるにうららけ 後く 四三伊也
たは判士とらるるにえと我もそ一りうららけ
ゆららけ葉とあらうしたるにうららけとわらわらけ
うららけとらるるにうららけ 喜望の月とわらわらけ
うららけとらるるにうららけとらるるにうららけ
うららけとらるるにうららけとらるるにうららけ
うららけとらるるにうららけとらるるにうららけ
うららけとらるるにうららけとらるるにうららけ

和歌集

此歌書とらるるにうららけとらるるにうららけ
の月とらるるにうららけとらるるにうららけ
早ね 夜更の月とらるるにうららけとらるるにうららけ
歌連 詠ふとらるるにうららけとらるるにうららけ
たは判士とらるるにうららけとらるるにうららけ
の例とらるるにうららけとらるるにうららけ
くは判案とらるるにうららけとらるるにうららけ
山人とらるるにうららけとらるるにうららけ
解とらるるにうららけとらるるにうららけ

右以按本之書其卷之四
以此見必寫之則禁已上

明和八齋自口 吳氏尾

東門子



